

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	天王寺区
学 校 名	大阪市立味原小学校
学校長名	朝田 佳明

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立味原小学校では、第6学年31名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 平均正答率は、国語では大阪市平均、全国平均ともに上回っており、算数・理科では大阪市平均は上回っているが全国平均を下回っている。
- 平均無解答率は、国語では大阪市平均、全国平均より低い値となっているが、算数・理科では大阪市平均、全国平均より高い値となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

すべての領域で、平均正答率が大阪市平均、全国平均ともに上回っている。特にB「書くこと」の領域では、全国平均を9.5ポイント上回っている。読解・記述・コミュニケーションといった多様な言語活動を意識して学習活動に取り入れてきた結果、目的に応じて資料を読み取り、主体的に自分の考えを話したり、書いたりする力が定着してきたと考えられる。

〔算数〕

C「変化と関係」の領域では、平均正答率が大阪市平均、全国平均ともに上回っている。言語活動を重視し、自分の考えを理由を添えて説明したり、互いに伝え合ったりする学習を進めてきた結果、数量の関係やきまりを見つけたり、様々な解き方や理由を考え説明したりする設問の正答率が高い。B「図形」の領域では、平均正答率が大阪市平均、全国平均ともに下回る結果となっている。図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質、構成の仕方についての理解することに課題が見られる。

〔理科〕

「粒子」を柱とする領域では、平均正答率が大阪市平均、全国平均ともに上回っているが、「エネルギー」を柱とする領域では、平均正答率が大阪市平均、全国平均ともに下回っている。自分で発想した実験方法と追加された情報を基に、実験方法を検討して改善し、自分の考えをもつことに課題が見られる。

質問紙調査より

- 学級での話し合い活動で、自分の考えを深めたり広げたりすることができると肯定的に回答した児童の割合が62.0%であった。大阪市平均、全国平均を下回っており、今後も友達との対話的な学習活動を取り入れていく必要があると思われる。
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表することができると肯定的に回答した児童の割合が62.1%であった。大阪市平均は上回っているが、全国平均を下回っている。目的に応じて資料を読み取り、主体的に自分の考えを話したり書いたりする言語活動を今後も継続して授業に取り入れていく必要があると思われる。
- 家庭での学習時間についての質問では、「1時間以上」と回答した児童の割合は65.4%であり、大阪市平均、全国平均を上回っている。家庭での学習習慣は概ね定着しているといえる。
- 家庭での読書時間についての質問では、「30分以上」と回答した児童の割合は27.6%であり、大阪市平均、全国平均を下回っており、家庭での読書習慣については課題が見られる。
- 家庭でのゲーム時間についての質問では、「1時間未満」と回答した児童の割合は34.5%であり、大阪市平均、全国平均を上回っている。ゲームをする時間やスマートフォンの使い方など、家庭で約束を決めているように思われる。

今後の取組(アクションプラン)

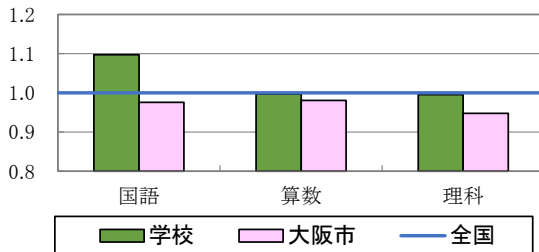
- 基礎的・基本的な知識・技能のさらなる定着に向けて、習熟度別少人数授業の指導形態を工夫するなど、児童一人一人に応じたきめ細かい指導を行っていく。
- 研究教科である生活科・理科の授業を中心に、ICT機器のより効果的な活用法を工夫し、自分の考えを深めたり広げたりする力をさらに伸ばすことができるよう、互いの意見を交流するなどの言語活動を重視した取り組みを授業の中に継続して取り入れていく。
- 児童の読書習慣の形成をめざし、図書館の本をより利用しやすくするため、読書環境の整備を進める。

【 全体の概要 】

平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	72.0	63.0	63.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3

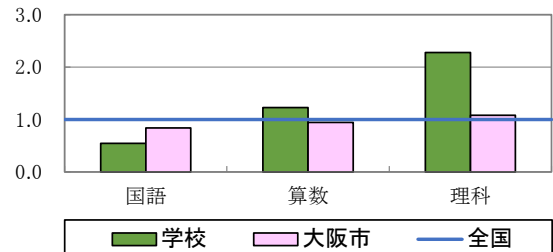
平均正答率(対全国比)



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	3.1	4.3	8.2
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6

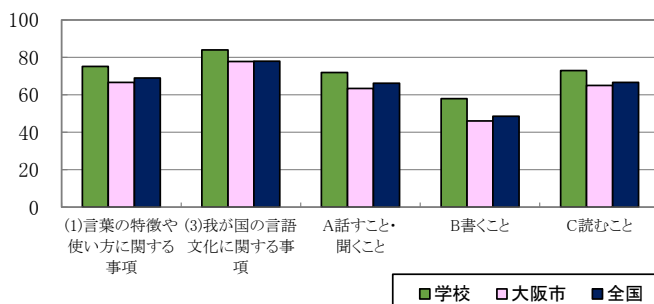
平均無解答率(対全国比)



【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	75.2	66.7	69.0
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	84.0	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	72.0	63.4	66.2
B 書くこと	2	58.0	46.0	48.5
C 読むこと	4	73.0	65.0	66.6

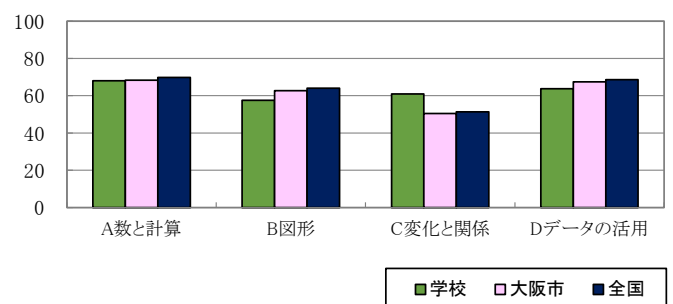
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



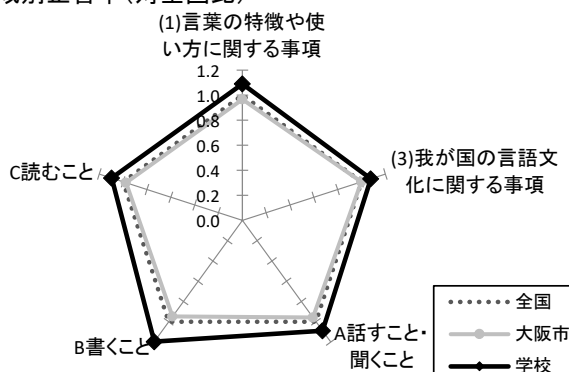
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	68.1	68.4	69.8
B 図形	4	57.6	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	60.9	50.5	51.3
D データの活用	3	63.8	67.5	68.7

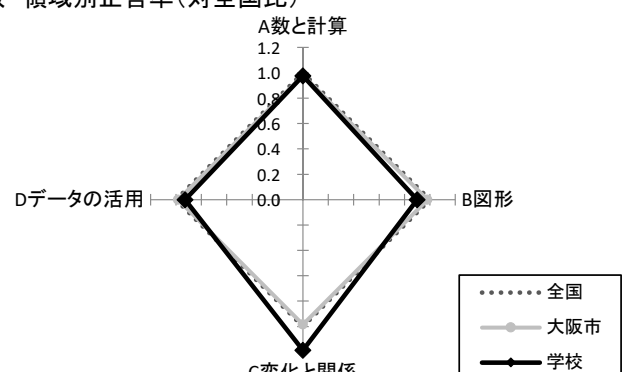
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)

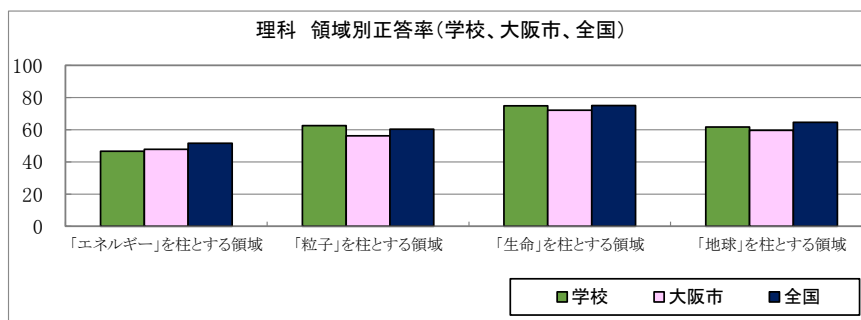


算数 領域別正答率(対全国比)

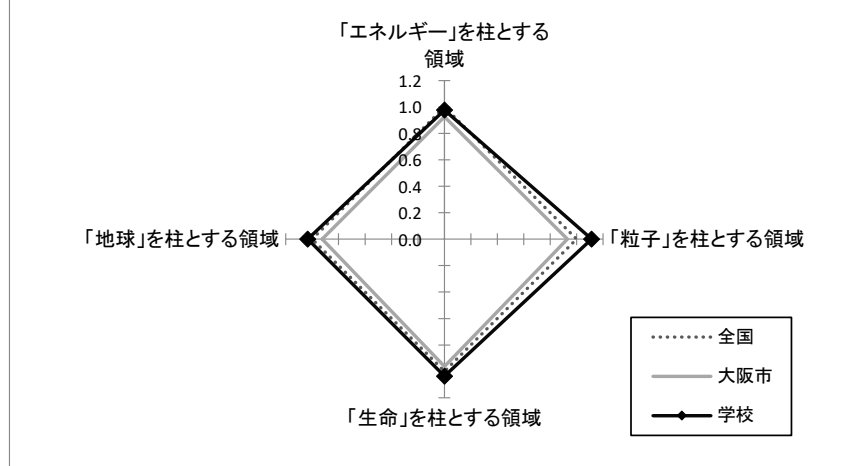


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	46.7	47.8	51.6
	「粒子」を 柱とする領域	62.6	56.2	60.4
B 区分	「生命」を 柱とする領域	74.8	72.2	75.0
	「地球」を 柱とする領域	61.7	59.7	64.6



理科 領域別正答率(対全国比)



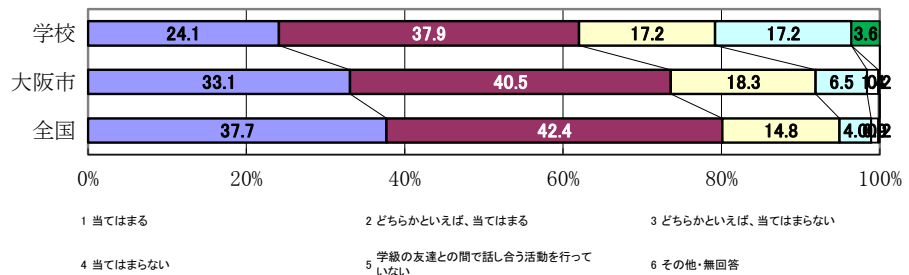
児童質問紙より

質問番号

質問事項

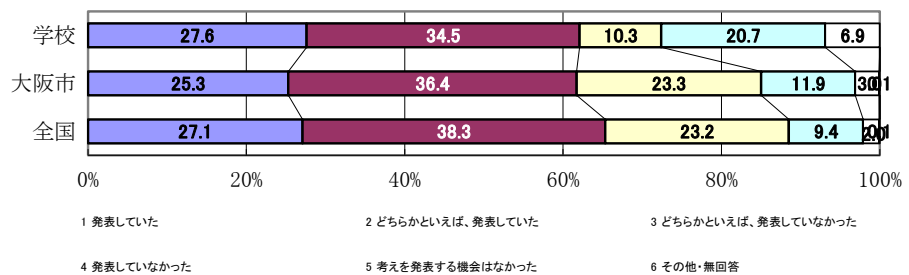
43

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



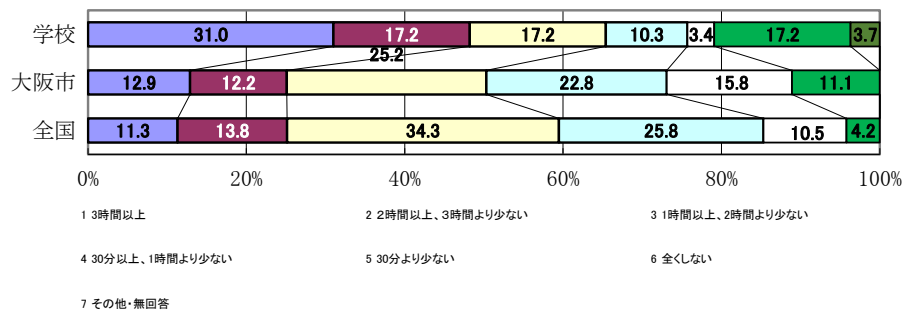
38

5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



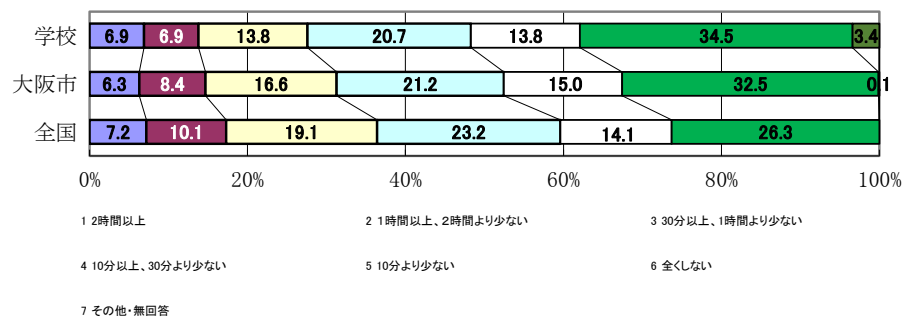
21

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



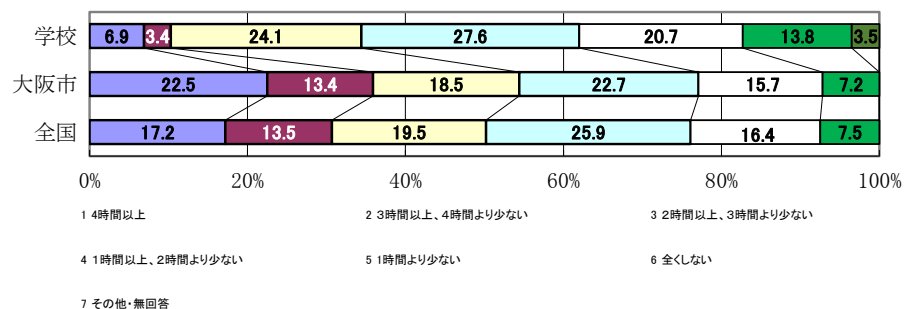
23

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)をしますか



5

普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

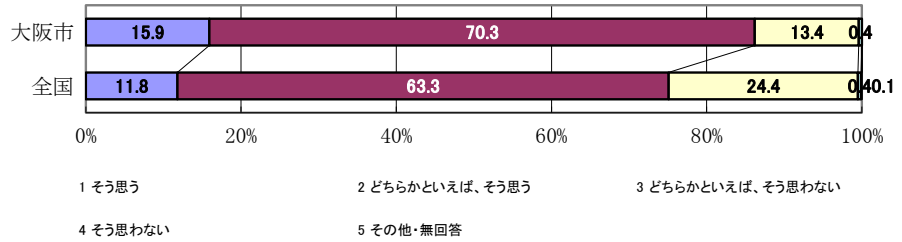
質問番号

質問事項

24

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

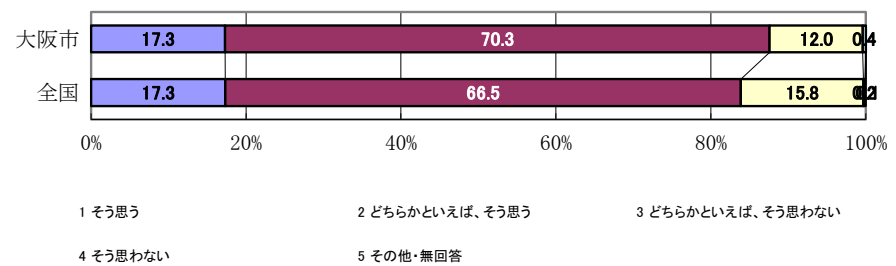
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



25

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

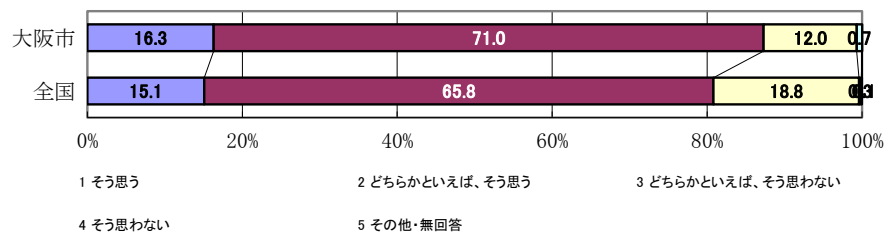
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



26

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

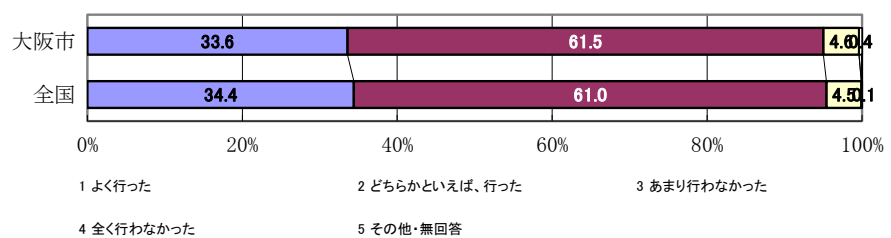
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



40

調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



41

調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択

